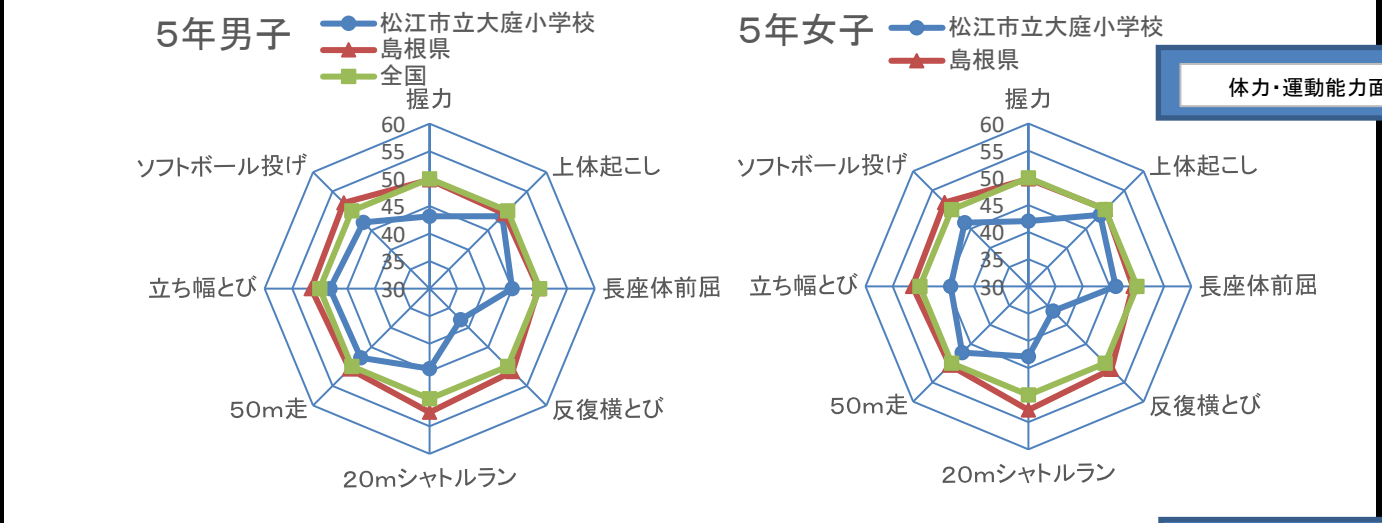
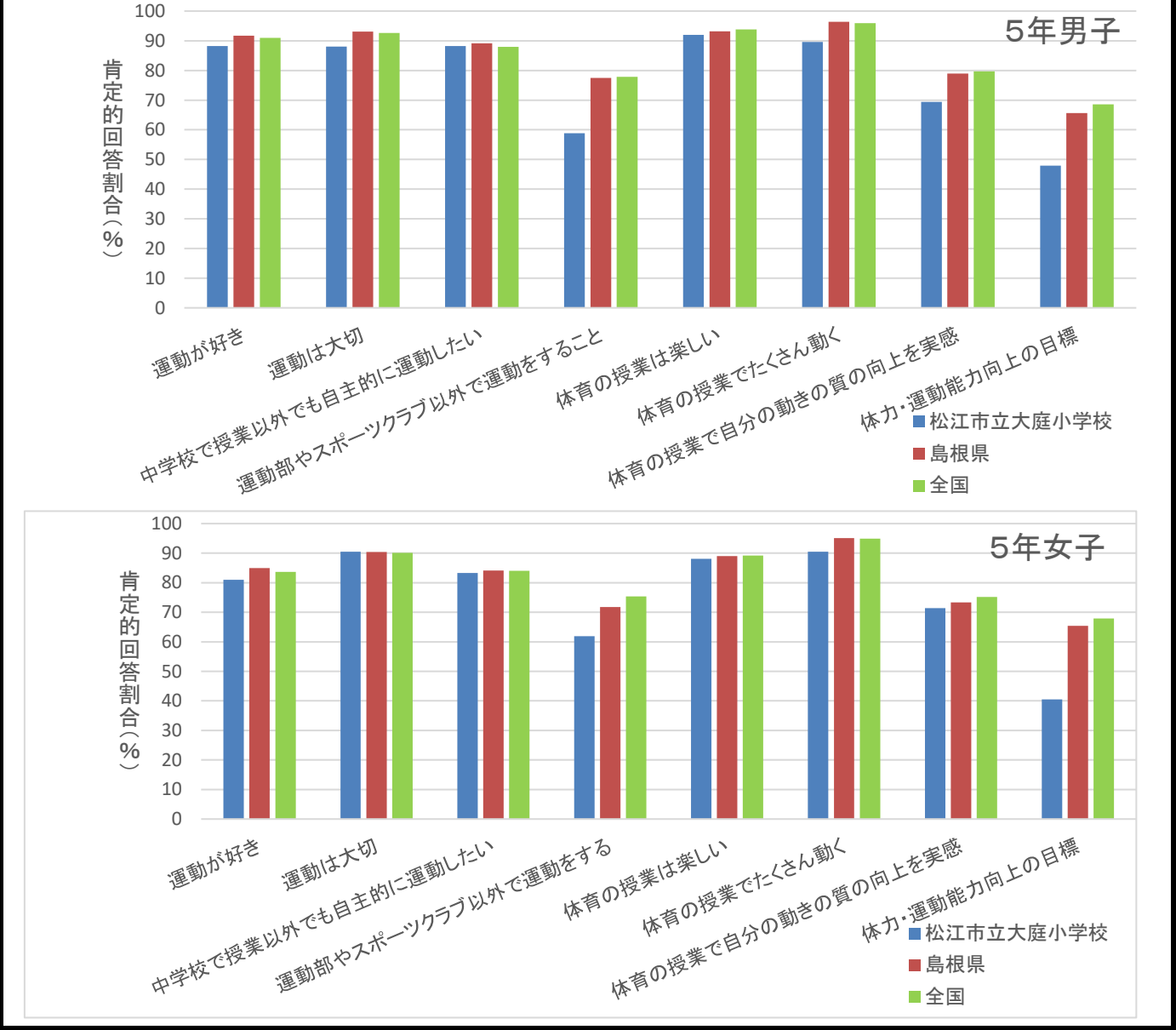


(1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)

(2) 調査結果の分析



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



① 体力・運動能力面

強み
○男子では「上体起こし」・「立ち幅跳び」が全国平均に近く、「筋持久力」と「瞬発力」に強みがあると判断できる。 ○女子でもは「上体起こし」・「50m走」が全国平均に近く、「筋持久力」と「走力」に強みがあると判断できる。
課題
●男女ともにどの項目においても県平均を下回っており、本校の児童は全体的に体力が低い傾向にある。 ●男子では「反復横跳び」「握力」が全国平均を大きく下回る。特に「敏捷性」に課題がある。 ●女子では「反復横跳び」「握力」「立ち幅跳び」において全国平均を大きく下回り、特に「敏捷性」に課題がある。
次年度の対策
○体育の授業において、導入時に体力アップにつながるメニュー(五種目歩走、五分間走、なわとび)を行い、全校の共通理解のもとに、年間を通して継続的に実施する。 ○姿勢体操などの体幹を鍛えるトレーニングや鉄棒指導に重点を置いて今後の指導を続けていきたい。 ○委員会活動と連携を図り、全校での体力づくり活動を計画、実施する。

② 意識面

強み
○男子では「運動は大切」・「運動が好き」の割合が全国平均に近い。 ○女子では「運動は大切」「体育の授業は楽しい」の割合が全国平均に近い。 ○男女ともに運動について肯定的に捉えていると判断できる。
課題
●男女ともに「運動部やスポーツクラブ以外で運動すること」が著しく低く、休み時間や放課後に運動をすることが少ないと判断できる。 ●「体力・運動能力向上の目標」の項目が全国平均に比べて極めて低く、運動することや体育について目的意識が薄いと判断できる。
次年度の対策
○体育授業の質の向上を目指すために、校内研修や教材教具等の環境整備の充実を図る。 ○体育授業においては、めあてとふりかえりの徹底を行い、目的意識を持つことができるようにする。 ○休憩時間に児童が体育館や校庭で運動するような場の設定を行う。

(3) 令和4年度の方針【学校全体での取組】

- ① 体力向上や体育科の授業に関する校内研修会の計画について
・体育の指導書の購入、指導法の研修を行い、教員に対する支援を行う。
・体育部で、体力向上に関する研修会を行い、学年部に伝達、授業での実践を行う。
- ② 体育科授業の工夫・改善について
・体育の授業において、導入時に体力アップにつながるメニュー(五種目歩走、五分間走、なわとび)を行い、全校の共通理解のもとに、年間を通して継続的に実施する。また、姿勢体操などの体幹を鍛えるトレーニングや鉄棒指導に重点を置いて今後の指導を続けていきたい。委員会活動と連携を図り、全校での体力づくり活動を計画、実施する。
・体育の授業において、主運動につながる運動例を集めて整理し、児童が多様な動きに触れる場を確保する。
- ③ 体育授業以外の活動の工夫について
・体づくりの視点から給食指導の様子を見直し、栄養バランスや残飯量などについて、適宜声かけや指導を行う。
・縄跳びへの取組を、年間を通じて全校で取り組む運動に位置づける。特に、持久跳びや二重跳びに重点をおき、記録カードを活用することで、児童の意欲を喚起し、友達と楽しく競い合いながら取り組めるようにする。
・外遊び、一輪車遊び、ブランコ遊び、体育館遊びなど各遊びに関するルールを職員会議で共通理解する。
・スポーツ委員会と連携を図り、体を使って遊ぶ場や取組を計画、実施する。
- ④ 家庭・地域、近隣の学校・園等との連携、情報発信等
・バランスのよい朝食摂取や早寝早起きなどの「規則正しい生活習慣の確立」を目指し、メディア週間や保健だより等と関連させ、保護者への啓発を図る。
・家庭でできる運動(トレーニングやストレッチ)を紹介し、「家族で取り組む〇〇週間」を計画して取り組む。特に長期休み等の機会を生かして定期的に実施することで、児童が運動に向かおうとする意識や意欲を高める。